

昭和十九年六月一日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

海軍大臣

大東亞大臣

岸國務大臣

内務大臣

司法大臣

農商大臣

森國務大臣

大藏大臣

文部大臣

軍需大臣

後藤

陸軍大臣

厚生大臣

運輸通信大臣

藤原國務大臣

別紙大東亞大臣請議關東州會社經理統制令中改正件

十九
十九
六六
七二

小
張
納

日本標準規格 35-4

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通
閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

(起案用紙青三ノ二號)

法制局第四號

昭和九年八月十八日

主任 滿洲事務局井上書記官

19.8.18

滿殖第一一二〇號

關東州會社經理統制令中改正ノ件

關東州經理統制令ニ關シテモ内地ノ改正ニ準ジ最近ノ經濟情勢ノ
變遷ニ對應スルト共ニ事務簡捷ノ見地ヨリ所要ノ改正ヲ爲スノ要
アリ仍テ別紙勅令案ヲ提出ス

法制局

關東州

本件公布ニ付テハ事務省

御打合せ相成度

付箋

法制局

九年五月十六日

大東亞大臣 青木一男



内閣官房總務課御中

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通
閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

(起案用紙青三ノ二號)

法務省
昭和十九年五月十八日

主任 滿洲事務局井上書記官

滿洲第一一二〇號

關東州會社經理統制令中改正ノ件

關東州經理統制令ニ關シテモ内地ノ改正ニ準ジ最近ノ經濟情勢ノ
變遷ニ對應スルト共ニ事務簡捷ノ見地ヨリ所要ノ改正ヲ爲スノ要
アリ仍テ別紙勅令案ヲ提出ス

右閣議ヲ請フ

昭和十九年五月十六日

大東亞大臣 青木一男



内閣總理大臣 東 條 英 機 殿

上奏書用紙

規格 B-4 (東東2102)

朕關東州會社經理統制令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

昭和十九年六月六日

内閣總理大臣
大東 亞 大 臣

勅令第三百八十九號

大東亞省

關東州會社經理統制令中左ノ通改正ス

第四條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

三 其ノ他國家經濟ノ運営上必要アリト認メラルルトキ

第六條第一項中「會社收益ノ狀況其ノ他經理ノ實情ニ照シ」ヲ「國家經濟ノ運営上」ニ、「當該會社」ヲ「會社」ニ改ム

第十三條第一項中「少キ金額ヲ超ユルトキ」ノ下ニ「又ハ其ノ支給ガ大使ノ定ムル金額ニ付大使ノ定ムル方法ニ依ラザルトキ」ヲ加フ

第十五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ大使ノ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

上奏書用紙

規格 B-4 (京東2102)

第十七條第二號ヲ削リ同條第三號中「其ノ他ノ手當（前二號ニ掲グル給與）」ヲ「手當（基本給料）」ニ改メ同號ヲ第二號トシ同條第四號中「前二號」ヲ「前二號」ニ改メ同號ヲ第三號トシ同條第五號ヲ

期昇給ヲ爲サントスルトキ及臨時昇給ヲ爲サントスルトキ」ニ、同條第二項第一號中「海軍軍醫科、藥劑科、主計科、造船科、造機科及造兵科士官」ヲ「海軍將校相當官」ニ改メ同條ニ第一項トシテ左ノ一項ヲ加フ

社員ノ基本給料ノ増加支給（以下昇給ト稱ス）ヲ分チテ左ノ各號ニ掲グル昇給トス

一 定期昇給（毎年一回又ハ二回一定ノ時期ニ於テ爲スモノ）

關東州會社經理統制令中左ノ通改正ス

第四條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

三 其ノ他國家經濟ノ運営上必要アリト認メラルトキ

第六條第一項中「會社收益ノ狀況其ノ他經理ノ實情ニ照シ」ヲ「國家經濟ノ運営上」ニ、「當該會社」ヲ「會社」ニ改ム

第十三條第一項中「少キ金額ヲ超ユルトキ」ノ下ニ「又ハ其ノ支給ガ大使ノ定ムル金額ニ付大使ノ定ムル方法ニ依ラザルトキ」ヲ加フ

第十五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ大使ノ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

上奏書用紙

規格 B-4 (京案2102)

第十八條中「及關東州在勤手當」ヲ削ル

第十九條第一項中「社員ノ基本給料ノ増加支給（以下昇給ト稱ス

）又ハ社員ノ關東州在勤手當ノ支給ヲ爲サントスルトキ」ヲ「定

期昇給ヲ爲サントスルトキ及臨時昇給ヲ爲サントスルトキ」ニ、

同條第二項第一號中「海軍軍醫科、藥劑科、主計科、造船科、造

機科及造兵科士官」ヲ「海軍將校相當官」ニ改メ同條ニ第一項ト

シテ左ノ一項ヲ加フ

社員ノ基本給料ノ増加支給（以下昇給ト稱ス）ヲ分チテ左ノ各號ニ掲グル昇給トス

一 定期昇給（毎年一回又ハ二回一定ノ時期ニ於テ爲スモノ）

二 臨時昇給（定期昇給ノ時期以外ノ時期ニ於テ爲スモノ）

第二十條

中

州在勤手當

、「ヲ加ヘ

第二十一條中「第十七條第二號及」ヲ削ル

第二十三條、第二十四條第二項及第二十五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ大使ノ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 資本金二十萬圓以上ノ會社ハ每事業年度ニ於テ支出

セントスル機密費、交際費、接待費其ノ他之ト同様ノ性質ヲ有

スル支出（利益金處分ニ依ルモノヲ含ム以下機密費等ト稱ス）

上奏書用紙

規格 B-4 (東東2102)

ノ合計金額又ハ廣告宣傳費其ノ他之ト同様ノ性質ヲ有スル支出

（利益金處分ニ依ルモノヲ含ム以下廣告宣傳費等ト稱ス）ノ合

計金額ガ當該會社ノ機密費等又ハ廣告宣傳費等ノ基準月額ニ當

該事業年度ノ月數（曆ニ從ヒ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタル

トキハ之ヲ一月ニ切上グ）ヲ乘ジテ得ベキ金額ヲ超ユルトキハ

大使ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ機密費等又ハ廣告宣傳費等ノ基準月額トハ會社ノ當該事

業年度初ノ拂込資本金額ニ各大使ノ定ムル割合ヲ乘ジテ得タル

金額トス

但シ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テハ各其ノ定ムル金額トス

「關東州外在勤手當」ノ上ニ「關東州在勤手當」

第二十三條、第二十四條第二項及第二十五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ大使ノ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 資本金二十萬圓以上ノ會社ハ每事業年度ニ於テ支出セントスル機密費、交際費、接待費其ノ他之ト同様ノ性質ヲ有スル支出（利益金處分ニ依ルモノヲ含ム以下機密費等ト稱ス）

上奏書用紙

規格 B-4 (臺東2102)

ノ合計金額又ハ廣告宣傳費其ノ他之ト同様ノ性質ヲ有スル支出
（利益金處分ニ依ルモノヲ含ム以下廣告宣傳費等ト稱ス）ノ合
計金額ガ當該會社ノ機密費等又ハ廣告宣傳費等ノ基準月額ニ當
該事業年度ノ月數（曆ニ從ヒ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタル
トキハ之ヲ一月ニ切上グ）ヲ乘ジテ得ベキ金額ヲ超ユルトキハ
大使ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ機密費等又ハ廣告宣傳費等ノ基準月額トハ會社ノ當該事業年度初ノ拂込資本金額ニ各大使ノ定ムル割合ヲ乘ジテ得タル金額トス。

但シ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テハ各其ノ定ムル金額トス

大東亞省

一 特別ノ事由アル場合ニ於テ會社が大使ノ承認ヲ受ケ機密費等又ハ廣告宣傳費等ノ基準月額トシテ特別ノ金額ヲ定メタルトキ

二 大使が機密費等又ハ廣告宣傳費等ノ基準月額トシテ特別ノ金額ヲ定メタルトキ

前項但書ノ適用ヲ受クル會社其ノ拂込資本金額ヲ減少シタルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ大使ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ旨大使ニ報告スベシ

第二十九條ノ二 資本金二十萬圓以上ノ會社ハ每事業年度ニ於テ支出セントスル國防獻金及恤兵金以外ノ寄附金其ノ他之ト同様

上奏書用紙

規格 B-4 (昭和2102)

ノ性質ヲ有スル支出(利益金處分ニ依ルモノヲ含ム以下寄附金等ト稱ス)ノ合計金額が大使ノ定ムル限度ヲ超ユルトキハ大使ノ許可ヲ受クベシ

第二十九條ノ三中「機密費等、」ノ下ニ「廣告宣傳費等、」ヲ加フ

第三十四條中「會社ノ經理ヲ適正ナラシムル爲」ヲ「國家經濟ノ運営上」ニ改ム

第三十八條ノ三中「、事項及期間」ヲ「又ハ事項」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際第三章ノ規定ノ適用ヲ受クル會社ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ大使ノ定ムル所ニ從ヒ本令施行ノ際ニ於ケル關東州在勤手當ノ準則ヲ大使ニ報告スベシ

前項ノ規定ニ依リ報告スル準則ハ第二十條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第二十四條第一項ノ規定ニ依リ報告スル準則ト看做ス

會社ノ本令施行前開始シ本令施行後終了スル事業年度ニ於ケル機密費等、廣告宣傳費等及寄附金等ニ關シテハ仍從前ノ第二十九條及第二十九條ノ二ノ規定ニ依ル

第二十九條及第二十九條ノ二ノ改正規定ハ資本増加（合併ニ因ル資本増加ヲ含ム以下同ジ）ニ因リ資本金二十萬圓以上ト爲リタル

上奏書用紙

規格 B-4 (東蔵2102)

會社ニ付テハ當該資本増加後最初ニ開始スル事業年度ヨリ之ヲ適用ス

本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

理由

最近ニ於ケル經濟情勢ノ變遷ニ即應シ且關東州ニ於ケル會社經理
統制事務簡素化ヲ圖ル爲關東州會社經理統制令中所要ノ改正ヲ爲
スノ要アルニ依ル

上奏書用紙

規格 B-4 (数量2102)

說明書

關東州會社經理統制令施行以來三年有餘ヲ經、其ノ間大東亞戰爭ノ勃
發等ニ因ル經濟情勢ノ著シキ變化ニ對應シ且官民相互ノ事務簡捷ノ見
地ヨリ規制方式及手續等ヲ簡易化スルノ必要ヨリ左記改正ヲ爲スモノ
ナリ

一、配當率ノ指定、積立金ノ積立及其運用命令並ニ餘裕資金ノ運用制限ノ擴張
現行令ハ會社內容ノ堅實性ヲ確保スルヲ第一目的トスルモ更ニ
會社經理內容ガ堅實ニテ一應妥當ト認メラルル場合ト雖モ國家經濟ノ
運営上萬般ノ經濟政策ヲ勘案シ配當率ヲ引下ゲシメ又ハ積立金ノ積立
及運用並ニ餘裕資金ノ運用ニ關シ國家經濟ノ運営上必要アリト認メラ
ルルトキニ於テモ之ヲ爲シ得ル様擴張スルコトトセリ

上奏書用紙

規格 B-4 (製本2102)

三、役員賞與支給方法ノ規制

現行令ハ役員賞與ノ支給金額ニ關シテノミ規制シ居ルモ社員トノ均衡
上法定賞與額ノ七割ヲ超ユル部分ニ對シ貯蓄セシメントスル爲新ニ支
給方法ニ付テモ規制スルコトトセリ

三、役員及社員ノ臨時ノ給與

現行令ハ役員及社員ニ對スル臨時ノ給與ノ支給ハ許可ヲ要スルコトト
ナリ居ルモ之ニ特例ヲ設ケ昨年三月閣議決定ヲ見タル價格報奨制度ニ
依リ會社ガ特別報奨ヲ受ケタル場合其ノ報奨金ヲ生産ニ寄與シタル役
員又ハ社員ニ分配スル際ニハ許可ノ手續ヲ要セザルコトトセリ

四、社員昇給

現行令ハ各昇給期ニ於ケル昇給該當者ノ基本給料月額ニ各々其ノ昇給

該當者ノ直前ノ昇給日後當該昇給日迄ノ經過月數ノ十二分ノ一ヲ乘ジ
之ニ平均昇給率百分ノ七ヲ乘ジテ得タル金額ノ合計額ト定メ居ルモ其
ノ手續ノ極メテ煩雜デアリ且各個人ニ付昇給限度ガ明瞭ニ算出セラル
ル結果弊害ヲ生ジ居ルニ鑑ミ昇給限度ノ計算ノ基礎ヲ各昇給該當者ニ
置クコトヲ改メ且經過月數ノ計算ノ煩雜ヲ避タル爲計算ノ基礎ヲ或ル
一定時期ニ於ケル社員全體トシ其ノ結果社員ノ昇給ハ原則トシテ毎年
一回該社ノ任意ノ時期ニ定期昇給ニ依リ行フモノトシ例外的ナ場合ニ
臨時昇給ヲ認ムルコトトスルモ、定期昇給ニ付テハ年一回ニテ支障ナ
ルモノニ付テハ當分ノ間年一回之ヲ認ムルコトトシ尙百分ノ七ノ平均
昇給率モ經濟情勢ノ變化及多數會社ノ社員構成ガ下級社員ノ激増セル
爲最近ハ百分ノ七ニテハ下級社員ノ昇給ニ窮屈ヲ感ズルニ至リタルヲ

以テ基本給料百五十圓以下ノ比較的下級ノ社員ニ付テハ平均昇給率百分ノ七ヲ百分ノ十トシテ下級社員ノ増加シタル會社等ノ昇給上ノ困難ヲ緩和スルト共ニ昇給ニ關スル計算ヲ容易ナラシメ且昇給金額ノ各個入ヘノ自由ナル接配ヲ行ヒ易クシ生産増強上ニモ相當寄與スルコトトセリ

五 社員手當

現行令第二十條ニ列舉セル社員手當ハ凡テ承認又ハ許可ヲ受ケタル準則ニ依ルノ外支給シ得ザルモ、特定ノ追加勤務手當、家族手當、食事手當ニ付テハ法定條件ノ範圍内ナラバ第二十條ニ掲グル率則ニ依ラス支給シ得ルコトトシ事務簡便ヲ圖ルコトトセリ

尚關東州在勤手當ニ付テハ現在法定制限額ヲ採リ法定限度内ノ増額ハ

自由トシ限度ヲ超過シ支給スル場合ニノミ許可ヲ要スルコトトシ居ル
モ右法定制限率ハ本令制定當時ニ於テハ大体妥當ナリシモ其後ノ經濟
事情ノ變化及官吏ノ戰時勤勉手當トノ均衡等諸種ノ事情ヲ勘案シ現行
率改訂ノ時期ニ達着セルモ之ヲ一律ニ増額セシムル場合ニ於ケル弊害
ヲモ考慮シ且本手當率ニ彈力性ヲ持タシメ各社ニ於ケル諸種ノ給與
狀況等彼此勘案許可スルノ方針ヲ採ルヲ最モ適當ナリトノ建前ヨリ法
定制限ヲ撤廢シ新ニ第二十條第一號ノ手當トシテ之ヲ追加シ準則主義
ニ依ルコトトセリ

六 機密費及廣告宣傳費

現行令ハ機密費、交際費、接待費又ハ廣告宣傳費其ノ他之ト同様ノ性
質ヲ有スル支出ヲ一括シテ機密費等ト稱シ從來ヨリ存在スル會社ニ付

テハ一定期間ノ実績ヲ基準月額トシテ認め新ニ本條項ノ適用ヲ受クル
ニ至リシ會社ニ付テハ承認ヲ受ケシメ兩者共ニ之ヲ増額シ又ハ右基準
月額ヲ超エテ支出スル場合ニハ許可ヲ要スルコトト爲シ居レルモ、實
績主義ノ爲從來相當多數ノ支出ヲ認メラレ居ル會社ト新設會社等トノ
不均衡甚シク然モ現在ノ情勢ヨリ機密費等ノ支出ハ相當之ヲ抑制スル
ヲ適當ト認メ之ヲ合理的水準迄引下ゲシムルコトトセリ
而廣旨宣傳費等ニ付テハ交際費、接待費等ト多少性質ヲ異ニスル點ニ
鑑ミ之ヲ現在ノ機密費等ヨリ分離シ別個ニ規制スルコトトシ兩者何レ
モ各會社ノ拂込資本金ニ對シ一定比率ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ法定
シ右限度超過ノ場合ニ許可ヲ要スルコトトシ更ニ會社ノ特殊事情ニ依
リ特別ノ不審許可限度ヲモ認ムルコトトセリ

七 寄附金

現行令ハ寄附金ニ付テハ確定額ヲ報告セシメ其ノ金額ヲ超エテ支出セ
ントスル場合ニハ許可ヲ要スルコトト爲シ居レルモ之ヲ改メ國防獻金、
恤兵金ハ寄附金ノ規制ヨリ除外シ其ノ他ノモノニ付テハ利益金及拂込
資本金ニ應ズル一定ノ不要許可限度ヲ設ケ之ヲ超エテ支出セントスル
トハニ限り許可ヲ要スルコトトシ豫定額ノ報告書提出ノ必要ヲ無クシ
事務簡捷ヲ圖ルコトトセリ

ハ、講習費、廣告宣傳費、寄附金ノ規定適用範圍擴張

現行令ハ資本金百萬圓未滿ノ會社及特別ノ法令ヲ以テ設立セラレタル
會社ニハ適用シ居ラザルモ之ガ適用範圍ヲ擴張シ之等會社ニ對シテモ
同様ニ本條項ヲ適用スルコトトセリ

九、本令ニ基ク各種ノ制限及義務ノ解除又ハ免除

現行令ハ本令ニ基ク制限ノ解除又ハ義務ヲ免除スル場合ニハ會社、事項及期間ノ三ツヲ定メテ爲ス旨規定シ居ルモ本規定ノ運用ニ機動性ヲ有セシムル爲會社又ハ事項ヲ一般的ニ告示等ノ方法ニ依リ制限ノ解除又ハ義務免除ヲ行ヒ得ルコトトシ非常事態發生ノ場合ニモ本條項ヲ活用シ得ルコトトセリ

以上ノ諸點改正ノ爲技術的ニ必要ナル規定ノ整理ヲ行フト共ニ之ニ伴フ關東州會社經理統制令施行規則ノ改正ニ際シ學校卒業後一年以上經過後採用スル者及轉職者ノ初任基本給料ヲ事務簡捷及待遇改善ノ見地ヨリ多少改メ第二十條ノ手當中大使ノ定ムル手當トシテ新ニ生産増強手當ヲ認メントスルモノナリ

参照

國家總動員法

昭和十五年四月
法律第五十五號

(國務各大
臣副署)

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルト
キハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ
當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務
ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セ
シムルコトヲ得

大日本帝國政府

朕關東州會社經理統制令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年一月十四日

內閣總理大臣 公卿 近衛 文麿

勅令第五十一號(官報 一月十五日)

關東州會社經理統制令

第一章 總則

第一條 關東州國家總動員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル國家總動員法(以下單ニ國家總動員法ト稱ス)第十一條ノ規定ニ依ル會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關スル命令ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 會社ハ國家目的達成ノ爲國家經濟ニ課セラレタル責任ヲ分擔スルコトヲ以テ經營ノ本義トシ其ノ經理ニ關シ左ノ各號ニ掲グル事項ノ遵守ヲ旨トスベシ

- 一 資金ハ之ヲ最モ有益ニ活用シ苟モ人的及物的資源ノ濫費ニ陥ルガ如キコトハ嚴ニ之ヲ避クルコト
- 二 經費ノ支出及資産ノ償却ヲ適正ナラシムルコト
- 三 役員、社員其ノ他從業者ノ給與及其ノ支給方法ヲ適正ナラシムルコト

四 利益ノ分配ヲ適正ナラシメ自己資金ノ蓄積ニ努ムルコト

第二章 利益配當及積立金

第三條 資本金(出資總額、株金總額、出資總額及株金總額ノ合計額又ハ基金總額ヲ謂フ以下同ジ)二十萬圓以上ノ會社ハ每事業年度ニ付左ノ各號ノ率ノ中低キ率ヲ超ユル率ニ依リ利益配當(基金利息又ハ基金配當ヲ含ム以下同ジ)ヲ爲サントスルトキハ滿洲國駐劄特命全權大使ノ許可ヲ受クベシ

- 一 配當金總額ガ自己資本ニ對シ年百分ノ八ニ相當スル金額ト爲ル配當率
- 二 直前ノ事業年度ノ配當率

左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テハ各其ノ定ムル率ヲ前項第二號ノ率ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

- 一 直前ノ事業年度ノ配當率ガ年百分ノ十二達セザルトキハ其ノ配當率ニ年百分ノ一(六月ニ非ザル期間ヲ事業年度トスルモノ)ニ在リテハ當該事業年度ノ月數ノ六ニ對スル割合ヲ百分ノ一ニ乘ジテ得タル率)ヲ加ヘタル率但シ其ノ率ガ年百分ノ六ニ達セザルトキハ年百分ノ六トシ年百分ノ十ヲ超ユルトキハ年百分ノ十トス

(國定規格B5一八三×二七九)

二 直前ノ事業年度ニ付利益配當ヲ爲サザリシトキ又ハ設立後最初ノ事業年度ノ利益配當ナルトキハ年百分ノ六

三 資本金二十萬圓未滿タリシ會社資本増加ニ因リ資本金二十萬圓以上ト爲リタル後最初ノ事業年度ニ付爲ス利益配當ナルトキハ第一號ノ規定ニ拘ラズ年百分ノ六

四 配當金總額ガ自己資本ニ對シ年百分ノ五ノ割合ニ相當スル金額ト爲ル配當率ガ前三號ノ率ヨリ高キトキハ其ノ率但シ其ノ率ガ年百分ノ十ヲ超ユルトキハ年百分ノ十トス

前二項ノ自己資本ハ大使ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ニ依ル

第四條 大使ハ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テハ會社ニ對シ期間ヲ定メ將來ノ配當率ニ付適當ト認ムル率ヲ指定スルコトヲ得

- 一 當該會社ノ利益ノ實情ニ照シ配當金ガ過大ナリト認メラルトキ
 - 二 當該會社ノ資金計畫ニ照シ自己資金ノ蓄積ガ必要ナリト認メラルトキ
- 會社ハ前項ノ規定ニ依リ配當率ニ付大使ノ指定ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ當該配當率ヲ超ユル率ニ依リ利益配當ヲ爲スコトヲ得ズ

大日本帝國政府

第五條 合併ニ因リテ設立シタル資本金二十萬圓以上ノ會社又ハ合併後存続スル資本金二十萬圓以上ノ會社ハ合併後最初ノ事業年度ニ付利益配當ヲ爲サントスルトキハ利益配當ノ率ガ年百分ノ六ヲ超エザル場合ヲ除キ前二條ノ規定ニ拘ラズ大使ノ定ムル所ニ依リ會社ノ申請ニ基キ大使ガ從前ノ利益配當其ノ他各會社ノ經理ノ實情ヲ參酌シテ指定シタル率ヲ超エザル利益配當ノ率ニ依ルベシ

第六條 大使ハ會社收益ノ狀況其ノ他經理ノ實情ニ照シ必要アリト認ムルトキハ當該會社ニ對シ法定準備金ノ外特別ノ積立金ノ積立ヲ命ジ又ハ當該積立金ノ運用方法ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ積立金ハ大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第三章 役員及社員給與

第七條 本章ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル會社ニ之ヲ適用ス

一 資本金二十萬圓以上ノ會社

二 前號ニ規定スルモノヲ除クノ外役員及社員ノ合計數當時三十人以上ノ會社

第八條 本章ニ於テ役員ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一 機關トシテ會社ノ業務ニ從事スル者

二 顧問、相談役其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ賞與ニ關シ會社ガ前號ニ該當スル者ニ準ジテ取扱フ者

第九條 本章ニ於テ社員ト稱スルハ船員及賃金(賃金、給料、手當、賞與其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ)雇傭者ガ勞務ノ對價トシテ支給スル金銭、物其ノ他ノ利益ヲ謂フ受クル勞務者ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一 會社ニ雇傭セラルル者

二 顧問、囑託其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ繼續シテ會社ノ業務ニ從事スル者但シ役員タル者ヲ除ク

第十條 本章ニ於テ給與ト稱スルハ報酬、給料、手當、賞與、交際費、機密費其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ會社ガ役員又ハ社員ノ職務ノ對價トシテ支給スル金銭、物其ノ他ノ利益ヲ謂フ

第十一條 役員ノ給與ヲ分チテ左ノ各號ニ掲グル給與トス

一 報酬(會社ガ役員ニ對シ一定ノ金額ニ依リ定期ニ支給スル給與ニシテ經費トシテ經理スルモノヲ謂フ但シ在勤手當其ノ他第二十條各號ニ掲グル社員手當ニ準ズル手當ヲ除ク

(國定規格B5(18×25.7))

二 賞與(會社ガ役員ニ對シ定期ニ利益金處分ニ依リ支給スル給與ヲ謂フ)

三 退職金(會社ガ退職シタル役員ニ對シ支給スル給與ヲ謂フ)

四 臨時ノ給與(會社ガ役員ニ對シ臨時ニ支給スル給與ヲ謂フ)

五 雜給與(前各號ニ掲グル給與ヲ除クノ外會社ガ役員ニ對シ支給スル給與ヲ謂フ)

第十二條 會社ハ毎事業年度ノ役員報酬ヲ支給セントスル場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ大使ノ許可ヲ受クベシ

一 支給セントスル役員報酬ノ合計金額ガ昭和十六年一月二十一日以後終了シタル各事業年度ニ付支給シタル役員報酬又ハ本條ノ規定ニ依リ大使ノ許可ヲ受ケタル役員報酬ノ事業年度毎ノ合計金額(當該事業年度ノ月數ト異ル月數ノ事業年度ニ付テハ大使ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額)ノ中最モ多キ金額(以下最高報酬額ト稱ス)ヲ超ユルトキ

二 昭和十六年一月二十一日以後終了シタル各事業年度ニ付役員報酬ヲ支給セザリシトキ

大日本帝國政府

- 二 直前ノ事業年度ニ於テ役員報酬ヲ支給セザリシトキ
- 三 設立後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキ
- 四 合併後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキ但シ其ノ役員報酬ノ合計金額ガ合併後存続スル會社ノ最高報酬額ヲ超エザルトキヲ除ク
- 五 第七條各號ノ一ニ掲グル會社ニ該當セザリシ會社第七條各號ノ一ニ掲グル會社ト爲リタル後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキ
- 第十三條 會社ハ毎事業年度ニ付役員賞與ヲ支給セントスル場合ニ於テ其ノ合計金額ガ左ノ各號ノ金額(百圓未満ノ端數ハ之ヲ百圓ニ切上グ)ノ中少キ金額ヲ超スルトキハ大使ノ許可ヲ受クベシ
 - 一 法定賞與額(大使ノ定ムル所ニ依リ計算シタル當該事業年度ノ純益金ニ大使ノ定ムル割合ヲ乗ジテ得タル金額ヲ謂フ以下同ジ)
 - 二 前期賞與額(直前ノ事業年度ニ付支給シタル役員賞與ノ合計金額ヲ謂フ但シ當該事業年度ノ月數ガ直前ノ事業年度ノ月數ト異ル場合ニ於テハ大使ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ヲ謂フ以下同ジ)

- 度ノ月數ト異ル場合ニ於テハ大使ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ヲ謂フ以下同ジ)
- 左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テハ各其ノ定ムル金額ヲ前項第二號ノ金額ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス
 - 一 前期賞與額ガ法定賞與額ニ達セザルトキハ前期賞與額ノ百分ノ百二十ニ相當スル金額但シ前期賞與額ノ百分ノ百二十ニ相當スル金額ガ法定賞與額ニ對シ百分ノ七十ノ割合ニ達セザルトキハ法定賞與額ノ百分ノ七十二ニ相當スル金額
 - 二 直前ノ事業年度ニ付役員賞與ヲ支給セザリシトキ又ハ設立後最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキハ法定賞與額ノ百分ノ七十二ニ相當スル金額
 - 三 合併後最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキ又ハ第七條各號ノ一ニ掲グル會社ニ該當セザリシ會社第七條各號ノ一ニ掲グル會社ト爲リタル後

(國定規格B5(二)×(三)七五)

- 最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキハ第一號ノ規定ニ拘ラズ法定賞與額ノ百分ノ七十二ニ相當スル金額
- 第十四條 會社ハ退職シタル役員ニ對シ退職金ヲ支給セントスルトキハ大使ノ許可ヲ受クベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 - 一 大使ノ定ムル限度ヲ超エザル退職金ヲ支給セントスルトキ
 - 二 大使ノ定ムル所ニ依リ大使ノ許可ヲ受ケタル準則ニ依リ退職金ヲ支給セントスルトキ
- 第十五條 會社ハ役員ニ對シ臨時ノ給與ヲ支給セントスルトキハ大使ノ許可ヲ受クベシ
- 第十六條 會社ハ第二十四條ノ規定ニ依リ大使ニ報告スベキ準則若ハ大使ノ承認ヲ受ケタル準則又ハ第二十五條若ハ第二十六條ノ規定ニ依リ大使ノ許可ヲ受ケ若ハ大使ノ定ムル所ニ依リ制定若ハ變更シタル準則ニ依リ外役員ニ對シ雜給與ヲ支給スルコトヲ得ズ

大日本帝國政府

第十七條 社員ノ給與ヲ分チテ左ノ各號ニ

掲グル給與トス

一 基本給料(會社ガ社員ニ對シ一定ノ金額ニ依リ定期ニ支給スル給與ノ中基本トナルベキ固定給料ヲ謂フ)

二 關東州在勤手當(會社ガ社員ニ對シ關東州内ニ在勤スルニ因リ定期ニ一定ノ金額又ハ割合ニ依リ支給スル給與ヲ謂フ)

三 其ノ他ノ手當(前二號ニ掲グル給與ヲ除ク外會社ガ社員ニ對シ定期ニ一定ノ金額、數量若ハ割合ニ依リ支給スル給與又ハ繼續シテ利用セシムル住居其ノ他ノ施設ヲ謂フ)

四 賞與(前三號ニ掲グル給與ヲ除ク外會社ガ社員ニ對シ定期ニ支給スル給與ヲ謂フ)

五 退職金(會社ガ退職シタル社員ニ對シ支給スル給與又ハ之ニ相當スル金額ニシテ在職中ノ社員ニ對シ前掛スルモノヲ謂フ)

六 臨時ノ給與(前五號ニ掲グル給與ヲ除ク外會社ガ社員ニ對シ臨時ニ支給スル給與ヲ謂フ)

第十八條 會社ハ大使ノ定ムル限度ヲ超エテ社員ノ初任ノ基本給料及關東州在勤手當ヲ支給スルコトヲ得ズ

但シ轉職者(前職ニ於テ役員報酬、社員基本給料又ハ之ト同様ノ性質ヲ有スル給與ヲ受ケ居リタル者ヲ謂フ)又ハ特別ノ經歷若ハ技能ヲ有スル者ニ付大使ノ許可ヲ受ケテ爲ス初任ノ基本給料ノ支給ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 會社ハ大使ノ定ムル限度ヲ超エテ社員ノ基本給料ノ増加支給(以下昇給ト稱ス)又ハ社員ノ關東州在勤手當ノ支給ヲ爲サントスルトキハ大使ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル昇給ニハ之ヲ適用セズ

一 入營シタル社員(陸軍衛生部將校ノ補充及現役期間ノ臨時特例第四條第一

項若ハ陸軍技術部將校ノ補充及現役期間ノ臨時特例第七條第一項ノ規定ニ依リ短期現役ニ服スル將校又ハ海軍軍醫科、藥劑科、主計科、造船科、造機科及造兵科士官現役期間特例第一條ノ規定ニ依リ短期現役ニ服スル士官ト爲リタル者ヲ含ム)、召集セラレタル社員又ハ徵用セラレタル社員退營シ又ハ召集若ハ徵用ヲ解除セラレ會社ノ勤務ニ復シタル場合ニ於テ勤務ニ復シタル後一年以内ニ當該社員ニ付爲ス昇給

二 基本給料ガ大使ノ定ムル金額ニ達セザル社員ニ付爲ス昇給ニシテ其ノ昇給後ノ基本給料ガ大使ノ定ムル金額ヲ超エザルモノ

(國定規格B5一八×二五七純)

第二十條 會社ハ第二十四條ノ規定ニ依リ大使ニ報告スベキ準則若ハ大使ノ承認ヲ受ケタル準則又ハ第二十五條若ハ第二十六條ノ規定ニ依リ大使ノ許可ヲ受ケ若ハ大使ノ定ムル所ニ依リ制定若ハ變更シタル準則ニ依ルノ外社員ニ對シ左ノ各號ニ掲グル手當ヲ支給スルコトヲ得ズ

一 關東州外在勤手當(關東州外ニ在勤スルニ因リ支給スル手當ヲ謂フ)、僻地手當其ノ他特殊地域ニ在勤スルニ因リ支給スル手當

二 危險手當其ノ他生命、健康等ニ關シ危險又ハ有害ナル特定ノ勤務ニ從事スルニ因リ支給スル手當

三 居殘手當、宿直手當其ノ他特定ノ追加勤務ニ對シ支給スル手當

四 大使ノ定ムル家族手當

五 食事手當又ハ被服手當

六 歩合ニ依リ支給スル手當

七 現物ヲ以テ支給スル手當

八 其ノ他大使ノ定ムル手當

第二十一條 會社ガ毎賞與期間ニ付社員ニ對シ支給スル賞與ノ總額ト第十七條第二號及前條各號ニ掲グル手當以外ノ手當ノ最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキハ第一號ノ規定ニ拘ラズ決定賞與額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額

第十四條 會社ハ退職シタル役員ニ對シ退職金ヲ支給セントスルトキハ大使ノ許可

大日本帝國政府

第十七條 社員ノ給與ヲ分チテ左ノ各號ニ

掲グル給與トス

一 基本給料(會社社員ニ對シ一定ノ金額ニ依リ定期ニ支給スル給與ノ中基本トナルベキ固定給料ヲ謂フ)

二 關東州在勤手當(會社社員ニ對シ關東州内ニ在勤スルニ因リ定期ニ一定ノ金額又ハ割合ニ依リ支給スル給與ヲ謂フ)

三 其ノ他ノ手當(前二號ニ掲グル給與ヲ除クノ外會社社員ニ對シ定期ニ一定ノ金額、數量若ハ割合ニ依リ支給スル給與又ハ繼續シテ利用セシムル住居其ノ他ノ施設ヲ謂フ)

四 賞與(前二號ニ掲グル給與ヲ除クノ外會社社員ニ對シ定期ニ支給スル給與ヲ謂フ)

五 退職金(會社社員ニ對シ退職シタル社員ニ對シ支給スル給與又ハ之ニ相當スル金額ニシテ在職中ノ社員ニ對シ前拂スルモノヲ謂フ)

六 臨時ノ給與(前五號ニ掲グル給與ヲ除クノ外會社社員ニ對シ臨時ニ支給スル給與ヲ謂フ)

第十八條 會社ハ大使ノ定ムル限度ヲ超エテ社員ノ初任ノ基本給料及關東州在勤手當ヲ支給スルコトヲ得ズ

但シ轉職者(前職ニ於テ役員報酬、社員基本給料又ハ之ト同様ノ性質ヲ有スル給與ヲ受ケ居リタル者ヲ謂フ)又ハ特別ノ經歷若ハ技能ヲ有スル者ニ付大使ノ許可ヲ受ケテ爲ス初任ノ基本給料ノ支給ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 會社ハ大使ノ定ムル限度ヲ超エテ社員ノ基本給料ノ増加支給(以下昇給ト稱ス)又ハ社員ノ關東州在勤手當ノ支給ヲ爲サントスルトキハ大使ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル昇給ニハ之ヲ適用セズ
一 入營シタル社員(陸軍衛生部將校ノ補充及現役期間ノ臨時特例第四條第一項若ハ陸軍技術部將校ノ補充及現役期間ノ臨時特例第七條第一項ノ規定ニ依リ短期現役ニ服スル將校又ハ海軍軍醫科、藥劑科、主計科、造船科、造船機科及造船兵科士官現役期間特例第一條ノ規定ニ依リ短期現役ニ服スル士官ト爲リタル者ヲ含ム)、召集セラレタル社員又ハ徵用セラレタル社員退營シ又ハ召集若ハ徵用ヲ解除セラレ會社ノ勤務ニ復シタル場合ニ於テ勤務ニ復シタル後一年以内ニ當該社員ニ付爲ス昇給

二 基本給料ガ大使ノ定ムル金額ニ達セザル社員ニ付爲ス昇給ニシテ其ノ昇給後ノ基本給料ガ大使ノ定ムル金額ヲ超エザルモノ

第二十條 會社ハ第二十四條ノ規定ニ依リ大使ニ報告スベキ準則若ハ大使ノ承認ヲ受ケタル準則又ハ第二十五條若ハ第二十六條ノ規定ニ依リ大使ノ許可ヲ受ケ若ハ大使ノ定ムル所ニ依リ制定若ハ變更シタル準則ニ依ルノ外社員ニ對シ左ノ各號ニ掲グル手當ヲ支給スルコトヲ得ズ

一 關東州外在勤手當(關東州外ニ在勤スルニ因リ支給スル手當ヲ謂フ)、僻地手當其ノ他特殊地域ニ在勤スルニ因リ支給スル手當

二 危險手當其ノ他生命、健康等ニ關シ危險又ハ有害ナル特定ノ勤務ニ從事スルニ因リ支給スル手當

三 居殘手當、宿直手當其ノ他特定ノ追加勤務ニ對シ支給スル手當

四 大使ノ定ムル家族手當

五 食事手當又ハ被服手當

六 歩合ニ依リ支給スル手當

七 現物ヲ以テ支給スル手當

八 其ノ他大使ノ定ムル手當

第二十一條 會社ガ毎賞與期間ニ付社員ニ對シ支給スル賞與ノ總額ト第十七條第二號及前條各號ニ掲グル手當以外ノ手當ノ當該賞與期間中ニ於ケル支給總額トノ合計金額ハ大使ノ定ムル限度ヲ超ニルコトヲ得ズ但シ大使ノ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ前項ノ限度ヲ超ニテ支給スル金額ニ付テハ會社ハ之ヲ經費トシテ經理スルコトヲ得ズ但シ大使ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第一項ノ賞與期間ハ大使之ヲ定ム

大日本帝國政府

第二十二條 會社ハ第二十四條ノ規定ニ依

リ大使ニ報告スベキ準則若ハ大使ノ承認
ヲ受ケタル準則又ハ第二十五條若ハ第二
十六條ノ規定ニ依リ大使ノ許可ヲ受ケ若
ハ大使ノ定ムル所ニ依リ制定若ハ變更シ
タル準則ニ依ルノ外社員ニ對シ退職金ヲ
支給スルコトヲ得ズ

第二十三條 會社ハ社員ノ全部若ハ大部分
又ハ社員數當時三十人以上ヲ有スル事務
所、工場若ハ事業場ニ付其ノ所屬社員ノ
全部若ハ大部分ニ對シ時期ヲ同ジクシテ
臨時ノ給與ヲ支給セントスルトキハ大使
ノ許可ヲ受クベシ

第二十四條 本令施行ノ際本章ノ規定ノ適
用ヲ受クル會社ハ國家總動員法第三十一
條ノ規定ニ依リ大使ノ定ムル所ニ從ヒ本
令施行ノ際ニ於ケル役員雜給與、第二十
條各號ニ掲グル社員手當及社員退職金ノ
準則ヲ大使ニ報告スベシ

第七條各號ノ一ニ掲グル會社ニ該當セザ
リシ會社ニシテ本令施行後第七條各號ノ
一ニ掲グル會社ト爲リタルモノハ役員雜

給與、第二十條各號ニ掲グル社員手當及
社員退職金ノ準則ニ付大使ノ承認ヲ受ク
ベシ

第二十五條 會社ハ役員雜給與、第二十條
各號ニ掲グル社員手當又ハ社員退職金ノ
準則ヲ制定シ又ハ變更セントスルトキハ
大使ノ許可ヲ受クベシ

第二十六條 大使ハ役員又ハ社員ノ給與及
其ノ支給方法ノ適正ヲ圖ル爲必要アリト
認ムルトキハ會社ニ對シ役員若ハ社員ノ
給與ノ金額若ハ支給方法ニ關シ必要ナル
命令ヲ爲シ又ハ役員雜給與、第二十條各
號ニ掲グル社員手當若ハ社員退職金ノ準
則ノ制定、變更若ハ廢止ヲ命ズルコトヲ
得

第二十七條 會社ハ何等ノ名義ヲ以テスル
ヲ問ハズ本章ノ規定ニ依ル制限ヲ免ルル
目的ヲ以テ役員又ハ社員ニ對シ給與ヲ支
給スルコトヲ得ズ

第二十八條 本章ノ規定ハ關東法院ガ決定
ヲ以テ定メタル報酬ニハ之ヲ適用セズ

第四章 經費及資金

第二十九條 昭和十七年一月三十日現在ニ
於テ資本金百萬圓以上ノ會社(第二項後
段ノ會社ヲ除ク)ハ國家總動員法第三十
一條ノ規定ニ依リ大使ノ定ムル所ニ從ヒ

(國定規格B5一八×二五七耗)

大日本帝國政府

機密費、交際費、接待費又ハ廣告宣傳費其
ノ他之ト同様ノ性質ヲ有スル支出(利益
金處分ニ依ルモノヲ含ム以下單ニ機密費
等ト稱ス)ノ基準月額ヲ大使ニ報告スベ
シ
昭和十七年一月三十一日以後設立(合併
ニ因ル設立ヲ含ム以下本項ニ於テ同ジ)
セラレタル資本金百萬圓以上ノ會社若ハ
資本増加(合併ニ因ル資本増加ヲ含ム以
下本項ニ於テ同ジ)ニ因リ資本金百萬圓
以上ト爲リタル會社又ハ同年一月三十日
以前設立セラレタル資本金百萬圓以上ノ
會社若ハ資本増加ニ因リ資本金百萬圓以
上ト爲リタル會社ニシテ同日以前其ノ設
立後若ハ資本増加後決算確定シタル事業
年度ナキ會社ハ大使ノ定ムル所ニ依リ機
密費等ノ基準月額ヲ定メ大使ノ承認ヲ受
クベシ
資本金百萬圓以上ノ會社ハ機密費等ノ基
準月額ヲ増額セントストキハ大使ノ許
可ヲ受クベシ

大使ハ必要アリト認ムルトキハ資本金百
萬圓以上ノ會社ニ對シ機密費等ノ基準月
額ヲ減額スベキコトヲ命ズルコトヲ得
資本金百萬圓以上ノ會社ハ每事業年度ニ
於テ支出セントスル機密費等ノ合計金額
方前四項ノ規定ニ依リ報告シ、承認ヲ受
ケ、増額シ又ハ減額シタル基準月額ニ當
該事業年度ノ月數(曆ニ從ヒ計算シ一月
未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月ニ
切上グ)ヲ乘ジテ得ベキ金額ヲ超ユルト
キハ大使ノ許可ヲ受クベシ
前五項ノ規定ハ特別ノ法令ニ依リ設立セ
ラレタル會社ニハ之ヲ適用セズ
第二十九條ノ二 資本金百萬圓以上ノ會社
ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ
大使ノ定ムル所ニ從ヒ每事業年度ニ於ケ
ル寄附金其ノ他之ト同様ノ性質ヲ有スル
支出(利益金處分ニ依ルモノヲ含ム以下
單ニ寄附金等ト稱ス)ノ豫定額ヲ大使ニ
報告スベシ
前項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタル會社ハ
其ノ報告シタル金額ヲ超エテ當該事業年

度ニ於テ寄附金等ヲ支出セントストキ
ハ大使ノ許可ヲ受クベシ
前二項ノ規定ハ特別ノ法令ニ依リ設立セ
ラレタル會社ニハ之ヲ適用セズ
第二十九條ノ三 大使ハ必要アリト認ムル
トキハ會社ニ對シ機密費等、寄附金等、福
利施設費其ノ他之ト同様ノ性質ヲ有スル
支出(利益金處分ニ依ルモノヲ含ム)又ハ
研究費其ノ他之ト同様ノ性質ヲ有スル支
出(利益金處分ニ依ルモノヲ含ム)ノ金額
又ハ其ノ經理ノ方法ニ關シ必要ナル命令
ヲ爲スコトヲ得

(國定規格B5(一八×二五七))

大日本帝國政府

年度ニ於テ第一項第二號又ハ第四號ニ掲グル支出ヲ爲サントスルトキハ大使ノ許可ヲ受クベシ

第一項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタル會社ハ其ノ報告シタル金額ヲ超エテ當該事業年度ニ於テ第一項第三號又ハ第五號ニ掲グル支出ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ遲滞ナク大使ニ報告スベシ

大使ハ必要アリト認ムルトキハ第一項第一號、第二號、第四號又ハ第五號ニ掲グル支出ノ金額又ハ其ノ經理ノ方法ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十條 大使ハ會社ノ經費ノ支出ヲ適正ナラシムル爲必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ之ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 會社ハ大使ノ定ムル所ニ依リ固定資産ノ償却ヲ爲スベシ但シ大使ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十二條 大使ハ會社ノ經理上必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ資産ノ償却ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 會社ハ大使ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ニ掲グル事項ニ付大使ノ許可ヲ受クベシ

一 有價證券ノ取得又ハ處分

二 特許權、礦業權又ハ漁業權ノ取得又ハ處分

三 資金ノ貸付又ハ借入

大使ハ會社ニ對シ借入金ノ限度ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ指定ヲ受ケタル會社ハ大使ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ其ノ指定ヲ受ケタル限度ヲ超エテ資金ノ借入ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十四條 大使ハ會社ノ經理ヲ適正ナラシムル爲必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ餘裕資金ノ運用ニ關シ必要ナル制限ヲ爲スコトヲ得

第五章 經理検査

第三十五條 大使ハ會社ノ資産負債及損益ノ内容、利益金ノ處分其ノ他經理ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場

所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢検査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第三十六條 會社ハ大使ノ定ムル所ニ依リ財産目録、貸借對照表、損益計算書及原價計算ニ關スル書類ヲ作成スベシ

前項ノ財産目録ニ記載スベキ財産ハ大使ノ定ムル所ニ依リ之ヲ評價スベシ

會社ハ第一項ノ規定ニ依リ作成スベキ書類ノ調製ニ必要ナル帳簿ヲ備ヘ整然且明瞭ニ之ガ記帳ヲ爲スベシ

第三十七條 大使ハ必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ勘定科目及帳簿組織ヲ指定シ之ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第三十八條 大使ハ必要アリト認ムルトキハ會社ヲ指定シテ決算ニ關シ當該官吏ノ監査ヲ受ケタルコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ決算ニ關シ監査ヲ受ケタル命令ヲ受ケタル會社ハ當該官吏ノ監査ヲ受ケタルコトノ證明ヲ受ケタル後ニ非ザレバ利益金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第六章 雜則

(國定規格B5(一八×二五七))

大日本帝國政府

第三十八條ノ二 會社ハ何等ノ名義ヲ以テ
スルヲ問ハズ本令ニ基テ制限ヲ免ルル行
爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十八條ノ三 大使ハ必要アリト認ムル
トキハ會社、事項及期間ヲ定メテ本令ニ
基テ制限ヲ解除シ又ハ本令ニ基テ義務ヲ
免除スルコトヲ得

第三十九條 本令(役員及社員給與ニ關ス
ル規定ヲ除ク)中大使トアルハ南滿洲鐵
道株式會社、滿洲電信電話株式會社、東洋
拓殖株式會社、橫濱正金銀行、朝鮮銀行、
臺灣銀行及關東州ニ營業所ヲ有シ銀行法
ノ適用ヲ受クル銀行ニ付テハ當該會社又
ハ銀行ヲ監督スル主務官廳トス

第四十條 大使ハ本令施行ニ關スル事務ノ
一部ヲ關東州廳長官、稅務署長又ハ民政
署長ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

大使ハ關東州廳長官、稅務署長又ハ民政
署長ヲシテ第三十五條ノ規定ニ依リ報告
ヲ徵セシメ又ハ關東州廳長官、稅務署長、
民政署長若ハ其ノ代理官ヲシテ同條ノ規
定ニ依リ臨檢検査ヲ爲シシムルコトヲ得

第四十一條 本令ハ昭和十六年一月二十一
日ヨリ之ヲ施行ス

第四十二條 關東州會社利益配當令、關東
州會社職員給與臨時措置令及昭和十四年
勅令第七百九十八號ハ之ヲ廢止ス但シ

本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則
ノ適用ニ付テハ仍其ノ効力ヲ有ス

第四十三條 會社ノ直前ノ事業年度ノ利益
配當方關東州會社利益配當令第二條ノ規
定ニ依リ大使ノ許可ヲ受ケテ基準配當率
ヲ超ユル率ニ依リ爲シタルモノニシテ當
該利益配當ノ率ノ中大使ガ其ノ許可ヲ爲
スニ際シ基準配當率ニ算入セザル旨ヲ定
メタル部分アルトキハ其ノ部分ヲ除キタ
ル率ヲ以テ第三條第一項第二號ノ直前ノ
事業年度ノ配當率ト看做ス

第四十四條 本令施行前合併ヲ爲シタルニ
因リ關東州會社利益配當令第三條第一項
第三號ノ規定ニ依リ基準配當率ニ付大使
ノ認定ヲ受ケタル會社ガ當該合併後最初
ノ事業年度ノ利益配當ヲ本令施行後爲サ
ントストキハ當該基準配當率ヲ以テ第
三條第一項第二號ノ直前ノ事業年度ノ配
當率ト看做ス

第四十五條 資本金二十萬圓未滿タリシ會
社ニシテ本令施行前ノ資本増加ニ因リ資
本金二十萬圓以上ト爲リタルニ因リ關東
州會社利益配當令第三條第一項第四號ノ
規定ニ依リ其ノ基準配當率ニ付大使ノ認
定ヲ受ケタル會社ガ當該資本増加後最初
ノ事業年度ノ利益配當ヲ本令施行後爲サ
ントストキハ當該基準配當率ヲ以テ第
三條第一項第二號ノ直前ノ事業年度ノ配
當率ト看做ス

第四十六條 關東州會社利益配當令第四條
ノ規定ニ依リ其ノ基準配當率ニ付大使ノ
指定ヲ受ケタル會社ガ指定後最初ノ事業
年度ノ利益配當ヲ本令施行後爲サントス
ルトキハ其ノ指定ヲ受ケタル基準配當率
ヲ以テ第三條第一項第二號ノ直前ノ事業
年度ノ配當率ト看做ス

第四十七條 第三條第二項第一號ノ規定ハ
第四十四條乃至前條ノ場合ニ於テ大使ガ
基準配當率ノ認定又ハ指定ヲ爲スニ際シ
當該認定又ハ指定後ノ最初ノ利益配當ニ
關シ關東州會社利益配當令第二條第一號

(圖定規格15一八三×二七九)

大日本帝國政府

ノ規定ヲ適用セザル旨ヲ定メタルトキハ
當該利益配當ニ關シテハ之ヲ適用セズ
前項ニ規定スル場合ヲ除クノ外第三條第
二項第一號及第四號ノ規定ハ第四十三條
乃至前條ノ規定ニ依リ直前ノ事業年度ノ
配當率ト看做サレタル率ニ付テモ亦之ヲ
適用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從前ノ第二十九條第一項ノ規定
ニ依リ本令施行後最初ニ終了スル事業年度
ニ付同項第一號ニ掲グル支出ノ豫定額ヲ報
告シタル會社ガ當該事業年度ニ於テ其ノ豫
定額ノ範圍内ニ於テ爲ス機密費等ノ支出ニ
ハ第二十九條第五項ノ改正規定ハ之ヲ適用
セズ

本令施行前會社ガ從前ノ第二十九條第一項
ノ規定ニ依リ本令施行後最初ニ終了スル事
業年度ニ付爲シタル同項第二號ニ掲グル支
出ノ豫定額ノ報告ハ之ヲ第二十九條ノ第二
一項ノ改正規定ニ依リ爲シタル報告ト看做
ス

本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ
適用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル